

'67 NO.1

橋建協

(社) 日本橋梁建設協会
図 書 資 料

NO.2 虹橋一

4

4

社団法人 日本橋梁建設協会

東京都中央区銀座西二丁目一番地



御 挨 拶

会長 大 森 弘

前会長故加藤染雄氏急逝の後をうけまして御推挙により不肖このたび会長に就任致しました。

実の処、内心その任の重大さを痛感し身に少なからず緊張の度を加えて居りますが、就任の上は会員相互の理解を深め、一致協力を図り、以て本会設立の趣旨目的の達成に微力ではありますが、誠意をもって当る覚悟であります。

当面業界の自由化対策を始めとする、本四連絡架橋の諸研究、輸出事業の振興、国内公共関連事業の安定発注等業界の諸問題に対しましては既に決定された基本方針を踏襲する所存であります。しばらくの間は不手際な面も多々生じ且、その進行振りは、遅々として居る状態に立ち至るやも知れませんが、万事根気よく、着実に、この山積した諸事と取組み処理し度いと念願して居ります。

就きましては、会員各位の前任者に倍する御指導と御協力を切に御願います次第で御座います。

目 次

- 1.....会長就任の挨拶
- 2.....加藤前会長を偲ぶ
／加藤さんの思い出を語る
- 3～10.....42年度第3回定期総会報告
- 13.....理事会議事録
- 14.....技術委員会／運営委員会
- 15.....労務委員会／資材委員会／
輸送委員会
- 16.....本州四国委員会
- 17.....事務局だより／行事報告
- 18.....委員会名簿
- 19.....役員名簿／会員名簿
- 22.....あとがき

S. 42

橋 建 協 No.4 1967. 8 (非売品)

編集兼発行人・額 額 八 郎

発 行 所・社団法人
日本橋梁建設協会

東京都中央区銀座西2～1

鉄骨橋梁会館2階

TEL (561) 5225・5452



前会長故加藤染雄氏に対し
政府より従五位勲四等瑞宝
章が贈られた

加藤前会長を偲ぶ

副会長 富士栄 一

前会長加藤染雄氏の御逝去に衷心より哀悼の
詞を捧げます。

当協会も創設三週年を迎え、漸く其の活動期に入っ
たとは云い条、内外に色々の難問題が山積して居りま
す。此の事は奇しくも橋建協2号「まえがき」に故人
が詳細に述べて居られますので重複を避けますが、此
の時に当り加藤さんの御他界は何物にも替え難い損失
でありました。

余りにも突然であり、余りにも悲痛でした。御遺族
の御悲嘆察するに忍びません。訃報を電話で聞き、又
死亡広告で知った者は一様に人生の儚さを嘆き、日が
立つにつれ、偉大な先人の遺徳を偲んで居ましょう。

今年度の協会役員の改選により新会長として卓越し
た識見と技術者としての抱負を十二分に発揮されよう
としての矢先だけに、加藤さんも本当に御心残りだっ
たと存じます。

橋建協としては大森新会長を中心に伸び行く日本の
建設の担い手として加藤さんの言「以和為貴」を以っ
て遅しく成長する事が一番の回向と信じ哀悼の詞と致
します。

加藤さんの思い出を語る

松尾橋梁株式会社

相談役 高田 稔

加藤さんとは、戦前からの御附合いを願って居って
御互に勝手な事を言い合った、ホントに親しい友であ
った。だれとでも親しく話をする方で、特にゴルフを
愛好して、常にマナーのよい真面目なゴルファーであ
った。腕と心臓は相当な物で、ホールインワンを二回
もされるし練習場等でプロの玉子をつかまえてコーチ
したりして、セミプロを驚かせた事もあった。酒も可
成り強く、一軒では足らず、大抵二、三軒は回るハン
グであったが、呑めば踊るし、歌も小唄もうまかつ
た。

愉快的な酒で、女性によくもてた、反面義理堅くて頼
まれればイヤと云えない人だった。

元来、技術屋さんだから、技術の方は勿論だが、ど
んな人とお付合いがうまく、話も上手で、営業的
にも手腕があり、加藤さんの様に両方すぐれた人は少
ないと思う。その為、皆からしたわれたのだろう。

人生ははかない。まだまだこれからと思って居った
のに、こんなに早く他界をされて全く夢の様でいまだ
に御顔を思い出して実感が出ない。それにしても業界
はおいしい人をなくしたものだ痛感に堪えない。

昭和42年度第3回定期総会報告

1. 業務報告

自昭和41年 4月 1日
至昭和42年 3月31日

1. 会員の状況

昭和41年度末現在の会員数 38社

2. 会 議

A 第2回定期総会 昭和41年 4月28日

- 1) 昭和40年度業務報告並びに収支決算及び剰余金処分案の承認を求める件
- 2) 昭和41年度事業計画に関する件
- 3) 昭和41年度収支予算案の承認を求める件
- 4) 会費割当方法について承認を求める件

B 理 事 会

第7回理事会 昭和41年 4月25日

- 1) 第2回定期総会提出議案の審議
- 2) 第2回定期総会開催日時決定について
- 3) 新会員入会承認の件

株式会社酒井鉄工所 代表者 酒井芳申
石川島造船化工機株式会社 代表者 下村禮輔
橋崎造船株式会社 代表者 水田 正

- 4) 昭和41年度鋼橋造施工調査委託について
- 5) 関西事務所設置について
- 6) 池田兼昌理事(日立造船株式会社)の辞任について

第8回理事会 昭和41年 8月17日

- 1) 社団法人日本道路協会未加入会員の加入について
- 2) 第13回国際道路会議賛助金割当について
- 3) 旬刊「高速道路」購読について
- 4) 東京湾横断架橋促進中央大会参加について

第9回理事会 昭和41年 9月13日

- 1) 国際橋梁会議「吊橋に関するシンポジウム」開催に際し調査委託について

- 2) 東京湾総合開発協議会加入について

第10回理事会 昭和41年12月15日

- 1) 資本取引の自由化について
- 2) 横断歩道橋について関係官庁に陳情について
- 3) 新年互礼会について

第11回理事会 昭和42年 1月17日

- 1) 横断歩道橋の陳情について
- 2) 土木学会に対する特別賛助金について

3. 各委員会の活動

(1) 運営委員会

毎月第1週第3週月曜日に定例的に委員会を開催し、会務の重要事項の処理に当たって来た。

(2) 市場調査委員会

1. 横断歩道橋製作工数及び架設費の標準の検討
2. 九州農政局綾川農業水利事業所に水路鋼拱桁の原価資料の提出
3. 横断歩道橋実績調査の実施
4. 横断歩道橋標準設計書に対する原価計算書の作成
5. 鋼道路橋原価計算表(昭和41年度版)作成
6. 同上説明会の開催(会員、建設省、各地方建設局、主要都道府県庁、市役所、会計検査院、阪神高速道路公団等)
7. 北海道開発局他関係先に橋梁工事、設計、製作、積算資料の提出
8. 日本道路公団、阪神高速道路公団等に架設見積資料の提出

(3) 技術委員会

1. 橋梁架設工事見学会開催
新 十 三 大 橋 (大阪市土木局施工)
摩 耶 大 橋 (神戸市港湾局施工)
米 山 大 橋 (北陸地方建設局施工)
2. 鋼道路橋原価計算表掲載の工数表の検討
3. 日本建設コンサルタント(株)より委託された東名高速道路、浜名湖橋架設計画の検討
4. 設計、製作、架設工事3分科会の設置
5. 阪神高速道路公団に対し架設計画書の提出
6. 鉄骨橋梁年鑑 1966年版発行(鉄骨橋梁協会と共編)

(4) 労務委員会

1. 昭和41年度の春闘状況について懇談
2. 第9回東西合同労務幹事会開催(関西)
3. 昭和41年度の春闘に対する反省並に夏期一時金について状況の検討
4. 昭和41年度の夏期一時金について情報の交換と対策の検討
5. 昭和41年度の給与支給状況調査実施
6. 労災補償法の一部改正に関する問題について労働省の担当官との懇談会開催
7. 第10回東西合同労務幹事会開催(関西)
8. 労働省より依頼の“低水素系溶接棒使用の場

合の安全衛生対策”について検討

9. 昭和41年度年末一時金について情報の交換と対策の検討
10. 昭和41年度の給与支給状況調査表会員に発送
11. 車両及造船業界の労務対策について調査研究
12. 昭和42年度春闘について対策の検討
13. 第11回東西合同労務幹事会開催（東京）
14. 第12回東西合同労務幹事会開催（東京）
15. 昭和41年度春闘状況と情報の交換

(5) 資材委員会

1. 東京製鋼ローブ工場（川崎）並に神戸製鋼所溶接棒工場（藤沢）の見学会実施
2. 公正取引委員会と鉄鋼の不況カルテについて懇談需要者側の現況について答申
3. 鋼材入手難について鋼材クラブ需要者部会にて状況説明
4. 鋼材入手状況調査と調査結果を関係機関に提出
5. 日本機械工業連合会の原材料対策委員会に岩田委員長並に細井幹事出席“鋼材の納期短縮と価格の長期安定”について要望 41年 3月
6. 厚、中板（一般材）の定尺改定（案）の検討並に答申
7. 鋼材の高騰と入手難について通産省に陳情書提出
8. 鋼材の入手難について日本機械工業連合会を通じ関係先への働きかけと鋼材あっせん所（鋼材クラブ内）に対し鋼材入手希望報告によりあっせんに要望（条鋼類）
あっせん申込み数量 23,200ton
あっせんされた数量 168ton
9. 輸入鋼材及国内平、電炉メーカー引受鋼材（いずれも中形条鋼類）の入手希望調査の取りまとめと関係先への提出
入手希望数量 1,785ton

(6) 輸送委員会

1. 日本道路公団より依頼の橋桁のトレーラー輸送の場合の積算方法について日本通運に協力を願ひ資料作成道路公団に提出
2. 輸送委員会幹事2名増員の件
幹事 松尾橋梁株式会社 三谷 博氏
幹事 日立造船株式会社 河合利夫氏
3. 鉄骨、橋梁等の貨物輸送用特殊車両（長物貨車）の開発について国鉄関係者と懇談会開催
4. トラック運賃等の積算について講演会開催
講師 東京トラック協会 永瀬好蔵氏

5. 鋼道路橋原価計算表（41年度版）掲載の輸送費実例（貨車及貨物自動車の場合）の検討並に資料の作成
6. 東京都内における年末交通規制の資料会員に配布
7. 長物貨車製作に関する調査の件について検討

(7) 長大橋研究委員会

第一次報告書出版のための幹事会を数回開催し、その出版は42年6月上旬に行うことになった。尚、本委員会はこの出版を契機として一応解散し、今後は、研究課題によりその都度委員会を組織していくこととなった。

(8) 本州四国連絡架橋調査委員会

建設省近畿地方建設局より調査委託を受け（委託金3,000,000円）次の通り委員会を開催し、昭和42年3月20日調査を完了建設省に報告した。

委員会開催状況

- | | |
|-----------|-----|
| 1. 本委員会 | 3回 |
| 2. 幹事会 | 8回 |
| 3. 架設工事分会 | 38回 |
| 4. 製作分会 | 15回 |

(9) 会報「橋建協」編集委員会

協会の活動を周知せしめるため会報を発行することとし、創刊号を41年7月次いで2号を11月、3号を42年3月各発行した。

4. その他一般事項

1. 建設業関係11団体共催により新旧建設大臣の歓送迎会の開催、於 東京会館
2. 建設業関係11団体共催により叙勲祝賀会の開催 於 バレスホテル
3. 横断歩道橋について建設省道路局長、関東地方建設局長等に陳情
4. 資本取引の自由化に関する問題について建設省計画局の意見の具申
5. 会員懇親ゴルフ大会
第3回 於 日高カントリークラブ
優勝 西門栄二（川崎重工業㈱）
第4回 於 鷹の台カントリークラブ
優勝 安武秀次（佐世保重工業㈱）
6. 関西事務所開設（鉄骨橋梁協会関西支部内）
7. 昭和41年度橋梁受注実績調査の実施

以上

2. 会 計 報 告

貸 借 対 照 表

昭和42年3月31日現在

資 産 の 部		負債及資本剰余金の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	119,179	基 金	1,450,000
普 通 預 金 (安田)	979,610	預 り 金	3,030
〃 (第一)	84,647	未 払 金	18,012
立 替 金	10,000	退 職 給 与 引 当 金	508,200
敷 金	800,000	繰 越 剰 余 金	1,153,928
有 価 証 券	149,100	当 期 剰 余 金	△ 240,162
電 話 加 入 権	45,600		
什 器 備 品	709,872		
取 得 価 額			
1,275,700			
期 首 帳 簿 価 額			
928,026			
当期減価償却引当金			
△ 218,154			
合 計	2,898,008	合 計	2,898,008

財 産 目 録

昭和42年3月31日現在

(資 産 の 部)		金 額
項 目	摘 要	
現 金	期 末 現 在 手 許 有 高	119,179
普 通 預 金	安 田 信 託 銀 行	979,610
〃	第 一 銀 行	84,647
立 替 金	佐 世 保 重 工 業 (株)	10,000
敷 金	鉄 骨 橋 梁 会 館	800,000
有 価 証 券	電 話 債 権 (561) 5 4 5 2	149,100
電 話 加 入 権	(561) 5 2 2 5	45,600
什 器 備 品	別 紙 明 細 の と お り	709,872
計		2,898,008
(負 債 の 部)		金 額
項 目	摘 要	
預 り 金	源 泉 税	3,030
未 払 金	康健保険料、厚生年金料 42年3月分	18,012
退 職 給 与 引 当 金	額 額 他 2 名	508,200
計		529,242
差 引 正 味 資 産		2,368,766

収 支 計 算 書

自 昭 和 4 1 年 4 月 1 日
至 昭 和 4 2 年 3 月 3 1 日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費 収 入	12,800,000	(会 議 費)	(1,172,799)
入 会 金	300,000	会 議 費	1,172,799
雑 収 入	104,815	(事 業 費)	(3,861,727)
		調 査 研 究 費	3,861,727
		(人 件 費)	(3,556,348)
		給 与 金	2,067,181
		賞 与 金	1,009,500
		退 職 給 与 引 当 金	196,800
		福 利 厚 生 費	282,867
		(事 務 費)	(4,854,103)
		図 書 費	128,980
		印 刷 費	124,800
		通 信 費	787,792
		消 耗 品 費	139,942
		借 入 料	608,000
		交 際 費	470,997
		公 課 金	3,000
		旅 費	352,580
		交 通 費	484,680
		光 熱 水 道 費	53,194
		減 価 償 却 費	218,154
		広 告 費	226,000
		雑 費	869,854
		事 務 所 整 備 費	86,130
		関 西 事 務 所 経 費	300,000
		当 期 剰 余 金	△ 240,162
合 計	13,204,815	合 計	13,204,815

昭和41年度関西事務所経費明細

費 目	金 額
会 議 費	116,900
事 務 費	183,100
印 通 信 費	14,000
消 耗 品 費	41,600
借 入 料	8,500
光 熱 通 費	70,200
交 際 費	14,700
旅 費	20,540
雑 費	10,760
	2,800
合 計	300,000

本州四国連絡架橋調査委員会収支計算書

自 昭 和 4 1 年 4 月 1 日
至 昭 和 4 2 年 3 月 3 1 日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
建 設 省 近 畿 地 方	3,000,000	会 議 費	1,856,556
建 設 局 鋼 構 造		印 刷 費	695,099
施 行 調 査 委 託 金		旅 費	269,090
		事 務 費	137,175
		雑 費	42,080
合 計	3,000,000	合 計	3,000,000

剰 余 金 処 分 計 算 書

- 繰 越 剰 余 金 1,158,928円
- 当 期 剰 余 金 △ 240,162円
- 計 918,766円
- 次 期 繰 越 剰 余 金 918,766円

本剰余金は昭和42年度へ繰越すものとする。

昭 和 4 2 年 月 日

社団法人 日本橋梁建設協会

会 長 田 口 連 三

以上監査の結果正確なることを証明する。

昭 和 4 1 年 月 日

監 事 川 田 忠 雄 ㊟
監 事 笹 村 越 郎 ㊟

3. 昭 和 4 2 年 度 事 業 計 画

- 鋼橋の設計、製作、架設の技術に関する共同研究並びにその発表。
- 近代技術に関する講演会、見学会等の開催並びに参考資料の紹介。
- 長大橋の設計、製作、架設材料等の問題に関する調査研究結果の発表。
- 建設省より委託の本州四国連絡架橋調査の実施。
- 橋梁架設工事の見学会の開催。
- 鋼橋の原価計算についての調査研究並びに需要部門への発表。説明会の実施。
- 橋梁建設業に関する労務、輸送、資材等の一般的諸問題に対しての対策並びに調査研究。
- 輸出振興に関する調査研究。
- 海外技術調査団派遣（米国に於ける長大橋の架設現場）
- 会報の発行（季刊誌）
- 資本取引の自由化に関する対策研究。
- 「鉄骨橋梁年鑑」1967年版の発行。

以上

4. 昭和42年度収支予算

収 入 の 部				支 出 の 部			
費 目	金 額	前 年 比	備 考	費 目	金 額	前 年 比	備 考
会 費	18,150,000	+ 5,350,000	会 費	[会 議 費]	[1,500,000]	[+ 300,000]	総会, 理事会 各委員会等
雑 収 入	31,234	- 9,838	銀行利子共	[事 業 費]	[3,400,000]		見学会, 研究 会, 説明会, 会報発刊等
前年度繰越金	918,766	- 240,162		調査研究費	3,400,000	+ 800,000	
				[人 件 費]	[4,800,000]	[+ 300,000]	現職員3名分 及2名新採用 予定分を含む
				給 与	3,050,000	+ 350,000	
				賞 与	1,100,000	- 100,000	"
				退職給与引当金	300,000	+ 30,000	"
				福利厚生費	350,000	+ 20,000	社会保険料他
				[事 務 費]	[6,400,000]	[+ 1,400,000]	
				図 書 費	150,000	- 50,000	新聞, 参考書 資料等
				印 刷 費	350,000	- 50,000	名簿, 記録, 報告通知
				通 信 費	800,000	+ 200,000	電話料, 郵信 料
				消 耗 品 費	200,000	0	事務用品等
				借 室 費	840,000	+ 280,000	
				交 際 費	500,000	0	
				公 課 金	10,000	0	法人税均等割
				旅 費	900,000	+ 400,000	職員及び会員
				交 通 費	500,000	0	
				光 熱 費	100,000	- 80,000	ガス, 水道, 電気料金
				広 告 費	300,000	0	
				慶 弔 費	100,000	+ 100,000	会員及び関係 先関係団体会費 他
				負 担 金	500,000	+ 500,000	
				什器備品費	100,000	+ 100,000	
				減価償却費	200,000	0	
				関西事務所経費	500,000	+ 200,000	
				雑 費	300,000	0	
				[予 備 費]	[500,000]	[- 200,000]	
				[財政調整金]	[2,500,000]	[+ 2,500,000]	
合 計	19,100,000	+ 5,100,000		合 計	19,100,000	+ 5,100,000	

会 費 割 当 方 法

種 別	年 間 受 注 量	金 額
1 級	1,000 屯迄	0 円
2	2,000 "	50,000
3	3,000 "	100,000
4	4,000 "	150,000
5	5,000 "	200,000
6	6,000 "	250,000
7	7,000 "	300,000
8	8,000 "	350,000
9	9,000 "	400,000
10	10,000 "	450,000
11	11,000 "	500,000
12	12,000 "	550,000
13	13,000 "	600,000
14	14,000 "	650,000
15	15,000 "	700,000
16	16,000 "	750,000
17	17,000 "	800,000
18	18,000 "	850,000
19	19,000 "	900,000
20	20,000 "	950,000
21	21,000 "	1000,000
22	22,000 "	1050,000
23	23,000 "	1100,000
24	24,000 "	1150,000
25	25,000 "	1200,000
26	26,000 "	1250,000
27	27,000 "	1300,000

昭和42年度会費割当方法

会 社 名					受 註 屯 数	A 会費均等割	B 会費受註割	等級	合 計
					屯	円	円		
石 川 島 播 磨					24,120	50,000	1,150,000	24	1,200,000
石 川 島 造 船					82	50,000		1	50,000
浦 賀 重 工 業					6,295	50,000	250,000	6	300,000
大 島 工 業					3,075	50,000	100,000	3	150,000
片 山 鉄 工 骨					6,235	50,000	250,000	6	300,000
片 山 鉄 工 骨					558	50,000		1	50,000
川 崎 重 工 業					14,116	50,000	650,000	14	700,000
川 田 工 業					13,645	50,000	650,000	14	700,000
汽 車 製 造					21,786	50,000	1,050,000	22	1,100,000
栗 本 鉄 工 船					5,282	50,000	200,000	5	250,000
吳 造 鉄 工 船					6,330	50,000	250,000	6	300,000
駒 井 鉄 工 工					13,508	50,000	650,000	14	700,000
酒 井 鉄 工 工					1,600	50,000	50,000	2	100,000
桜 田 機 械					14,246	50,000	650,000	14	700,000
佐 世 保 重 工					827	50,000		1	50,000
高 田 機 工 業					12,723	50,000	600,000	13	650,000
滝 上 工 業					15,908	50,000	750,000	16	800,000
中 央 橋 梁 骨					3,674	50,000	150,000	4	200,000
東 京 鉄 骨 梁					12,119	50,000	550,000	12	600,000
東 網 橋 梁 業					903	50,000		1	50,000
ト ビ ー 工 業					10,344	50,000	450,000	10	500,000
橋 崎 造 船 梁					1,242	50,000		1	50,000
日 本 橋 梁 管					15,905	50,000	750,000	16	800,000
日 本 鋼 管 輻					18,200	50,000	850,000	18	900,000
日 本 車 輻 塔					5,892	50,000	250,000	6	300,000
日 本 鉄 塔					5,041	50,000	200,000	5	250,000
函 館 ド ッ					4,996	50,000	200,000	5	250,000
春 本 鉄 工 船					4,381	50,000	150,000	4	200,000
日 立 造 船 輻					18,856	50,000	900,000	19	950,000
富 士 車 輻 工					1,891	50,000	50,000	2	100,000
舞 鶴 重 工 梁					1,871	50,000	50,000	2	100,000
松 尾 橋 造 船 工					20,216	50,000	950,000	20	1,000,000
三 井 造 船 工 設					3,101	50,000	100,000	3	150,000
三 菱 重 工 設					27,216	50,000	1,300,000	27	1,350,000
宮 地 建 鉄 工 梁					0	50,000		1	50,000
宮 地 鉄 工 梁					20,142	50,000	950,000	20	1,000,000
横 河 橋 梁 事					24,057	50,000	1,150,000	24	1,200,000
横 河 工 事					0	50,000		1	50,000
合 計					360,447	1,900,000	16,250,000		18,150,000

理事會 議 事 録

第 12 回

日 時 昭和42年4月18日(火曜日)午前11時より
場 所 鉄骨橋梁会館・3階会議室
出 席 者 石川島播磨(春日井正雄)、川田工業(久城修一郎)、汽車製造(大谷寿宏) 駒井鉄工(小椋博之) 高田機工(生方一雄) 日本橋梁(加藤茂一)、松尾橋梁(高田稔)、三菱重工(鎌田正義)、宮地鉄工(富士栄一・伊藤英太郎)、横河橋梁(御園一雄)、事務局(額額八郎)

審議事項

1. 日本道路公団よりの要望事項について
昭和43年度分の工事代金については金繰りの関係上、従来の出来高払90%を70%に引下げざるを得なくなったので業界の協力を要望された。
○ 之に対しては諒承、尚近く公団と協会役員との間で懇親会を開催することとする。
2. 定期総会並役員会開催について
○ 定期総会は5月24日～26日の間で従来通り会館にて午後2時頃より開催する。終了後パーティを行う。
尚、之に対する役員会は5月15日～16日に開くこととする。
3. 長大橋の調査研究の為の海外視察団派遣について
昭和40年度以来建設省よりの委託により、本四委員会を結成、調査研究を進めているが実際の長大橋の架設状況等を視察し今後の参考に資する為本年8月頃アメリカへ約3週間の予定で調査団を派遣する。
○ 主旨については異議はないが具体的方法については技術委員会、本四委員会等にて充分研究の上計画すること。
4. 橋建協用務にて出張の場合の旅費について
従来橋建協用務にて会員出張の場合の旅費は各社負担となっているが、例えば「鋼道路橋原価計算表説明会」の如く約一ヶ月に亘って全国的に行うものは常時之に参加される会社の負担は決して少くないので本年度より之を協会負担とする。
○ 之については事務局にて旅費規程等具体案を

作成し理事会に附議すること。

5. 42年度会費徴収と事業計画について

41年1月～12月の受注数量は約360,000吨に及んだが従来通りの会費徴収方法即ち1,000吨増す毎に50,000円増す方法によれば18,000,000円程度になる。之は42年度の事業計画にとらみ合せて決定すべきもので41年度の如く最高を15級におさえることはしない。

○ 事務局にて事業計画を基として具体案を作成すること。

6. 資本自由化に関する当協会の答申について

○ 別添の如き答申案を建設省へ提出した。尚、今後業界としては充分協議し前向きの態度でこの問題に対処するべきである。

7. 建設関係の春の叙勲の受勲者祝賀会について

○ 4月29日に春の叙勲者の発表があるので、この受勲者に対して橋建協を含む建設関係11団体共催で5月11日(木曜日)午後5時から、パレスホテル・ローズルームに於て祝賀会を開催することになった。追而案内状は別途送付。

以上

第 13 回

日 時 昭和42年4月27日(木曜日)午後3時より
場 所 鉄骨橋梁会館・3階会議室
出 席 者 石川島播磨(春日井正雄・神保 紀)、川田工業(鈴木久門)、汽車製造(大谷寿宏)、駒井鉄工(稲垣茂樹)、高田機工(生方一男)、日本橋梁(久末達雄)、松尾橋梁(高田 稔)、三菱重工(鎌田正義)、宮地鉄工(富士栄一)、横河橋梁(加藤染雄)、事務局(額額八郎)

審議事項

昭和42年度国土建設週間における表彰について

標記について建設省計画局長より協会長宛に本年7月10日より実施の国土建設週間にあたり一般の奨励および啓蒙に資する為例年のとおり建設事業関係の功労者(30年以上勤務し会社役員を15年以上のもの)を建設大臣が表彰する予定なので橋梁業界から3名以内の該当者を推薦するよう通達があった。

之に対し協議の結果、本年度は当協会の役員中より下記の3名を推薦することとした。

理 事 光 永 一 三 男

〃 高 田 稔

〃 加 藤 染 雄

尚、明年度からは協会にて全会員に通知し該当者の調査を行いその内から順次推薦者を選考することとする。 以上

第 14 回

日 時 昭和42年5月16日（火曜日）正午より
場 所 鉄骨橋梁会館・3階会議室
出 席 者 石川島播磨（石田俊夫）、川田工業（鈴木久門）、汽車製造（大谷寿宏）、高田機工（生方一男）、日本橋梁（加藤茂一）、松尾橋梁（高田 稔）、三菱重工（鎌田正義・服部 元）、宮地鉄工（富士栄一）、横河橋梁（加藤染雄）、事務局（瀬瀬八郎）

審議事項

1. 第3回定期総会提出議案の審議について
原案通り異議なく承認
2. 第3回定期総会開催日時の決定について
昭和42年5月24日（水曜日）
3. 新会員入会の件
(1) 佐藤工業株式会社
代表者 佐 藤 欣 治
(2) 滝上建設興業株式会社
代表者 滝 上 俊 夫
上記2社よりかねて入会の申し込みがあったので検討の結果入会を承認 以上

第 15 回

日 時 昭和42年6月15日（木曜日）正午より
場 所 鉄骨橋梁会館・3階会議室
出 席 者 石川島播磨（牧野正士）、川田工業（鈴木久門）、汽車製造（大谷寿宏）、駒井鉄工（稲垣茂樹）、高田機工（三浦文次郎）、日本橋梁（西村英男）、日立造船（吉岡祐正）、松尾橋梁（高田 稔・鳴尾正太郎）、三菱重工（篠田幸生）、宮地鉄工（富士栄一）、横河橋梁（加藤染雄）、事務局（瀬瀬八郎）

審議事項

1. 運営委員改選の件（任期满了のため）

横河橋梁、石川島播磨、宮地鉄工、三菱重工、駒井鉄工の五社より正、副2名を推挙して貰うことに決定

2. 第19回「国土建設推進運動」協賛の件
建設省及び建設広報協議会より10口（1口一万円）の協賛方申し入れがあった。異議なく可決
3. 協会用務出張の場合の旅費の件
協会の用務にて会員会社の社員出張の場合は協会より出張依頼を会社宛行い旅費については会社規定の旅費に基いて会社側の請求により協会にて精算することとする。
4. 鉄骨橋梁協会との業務調整の件
橋梁に関する業務については、すべて橋建協に行う。両協会に共通するものは従来通り合同に行う。
5. 人事に関する件
建設省より推薦の、諸井英一氏（66才）を嘱託として採用することに決定
6. 長大橋研究委員会の件
今般第一次報告書が発行されたのを一区切りとして委員会は一応解散することとし、今後の長大橋に関する問題については改めて協会にて審議の上決めることとする
7. 海外長大橋視察団の件
目下アメリカで長大橋の架設中の現場見学（10月頃）を目的としてアメリカの現地と交渉中、そのO.Kを得た上で具体的計画を樹立することとする
8. 札幌支部設置の件
地方の特殊事情もあるので尚研究を要す
9. 工事の早期発注について建設省に陳情の件
早急に事務局にて陳情書を作製、本省は勿論関西方面にも陳情を行う 以上

第 16 回

日 時 昭和42年6月20日 AM 11:00 より
場 所 鉄骨橋梁会館・3階会議室
出 席 者 石川島播磨（春日井正雄）、川田工業（鈴木久門）、汽車製造（村瀬博）、駒井鉄工（小椋博之・小野良治）、高田機工（三浦文次郎）、日本橋梁（広川達郎）、日立造船（三本木利治）、松尾橋梁（高田稔・鳴尾正太郎）、三菱重工（篠田幸生）、宮地鉄工（富士栄一）、横河橋梁（中谷林之助）、事務局（瀬瀬八郎）

議 題 加藤染雄会長の死去に関する件

各 委 員 会 の 動 き

運営委員会

☆ 4 月

4月10日 於 協会々議室 11時より

1. 日本道路公団と懇談会の結果について
2. 資本取引自由化について建設省への答申案の検討の件
3. 長大橋視察調査団派遣について
4. 昭和42年度定期総会日程について
5. 日本道路公団より酒匂川、皆瀬川橋梁の架設費について問い合わせの件

☆ 5 月

5月10日 於 協会々議室

1. 会員懇親ゴルフ大会開催の件
2. 北海道に支部設置の件
3. 阪神高速道路公団に対し早期発注についての陳情を行う件
4. 東京湾総合開発会議総会出席の件
5. 建設広報協議会広告の件 30,000円

☆ 6 月

6月6日 於 協会々議室 11時より

1. 建設省主催の建設祭賛助金について
1口10,000を10口100,000円支出
2. 運営委員会メンバー再編成について
3. 鉄骨橋梁協会と業務調整について
橋梁に関する業務は一切橋建協で行うこととし
その内容については鉄骨橋梁協会にも連絡する
4. 協会業務による会員出張の場合の旅費規程の検討の件

6月26日 於 協会々議室 11時より

1. 橋梁工事早期発注について陳情の件
2. 「橋梁と基礎」広告の件
各社2,000円×40社80,000円
協会20,000円 合計 100,000円
3. 秋の叙勲並びに褒章の件

技術委員会

☆ 3 月

3月6日 幹事会開催 於 協会々議室 10時30分より

横断歩道橋標準設計図集について検討

☆ 4 月

4月20日 幹事会開催 於鉄骨橋梁会館会議室 10時より

1. 昭和42年度活動方針について
2. 1967年度版「鉄骨橋梁年鑑」編集方針及び掲載原稿の選考について

☆ 5 月

5月8日 幹事会開催 於 協会々議室 15時より

1. 横断歩道橋標準設計図集の検討
2. 長大橋に関する海外視察調査団派遣について

5月22日 幹事会開催 於鉄骨橋梁会館 13時より

1. 1967年度版「鉄骨橋梁年鑑」掲載原稿選考について

☆ 6 月

6月3日 設計分科会開催 協会々議室 13時より
横断歩道についての検討

6月5日 幹事会開催 於鉄骨橋梁会館 14時より
1967年度版「鉄骨橋梁年鑑」編集について

6月21日 架設工事分科会開催 協会々議室 13時30分より

近畿地方建設局より橋梁架設用機械調査の依頼があったのでその内容の検討

6月30日 橋梁架設工事及び工場見場会の開催 於大阪 10時30分より

1. 阪神高速道路公団施工
福島第1工区鋼桁架設現場
2. 横河橋梁製作所大阪支店大阪工場 参加人員
約150名

市場調査委員会

☆3月

- 3月1日 鋼道路橋原価計算表（昭和41年度版）完成
- 3月9日 鋼道路橋原価計算表の説明会開催
於 会計検査院 14時より
- 3月10日 会員に対し鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 鉄骨橋梁会館 14時より
- 3月13日 九州地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 福岡日本生命ビル 13時30分より
- 3月16日 中国地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 広島ビル 14時より
- 3月22日 大阪地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 中小企業文化会館 10時30分より
- 3月23日 四国地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表説明会開催 於 香川県建設会館14時より
- 3月24日 中部地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 愛知県建設会館 13時より
- 3月27日 東北地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 日産生命会館14時より
- 3月28日 北陸地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 新潟婦人会館14時より
- 3月31日 北海道地区会員及び関係官庁に対する鋼道路橋原価計算表の説明会開催 於 札幌市自治会館 14時より

☆4月

- 4月8日 昭和42年度事業計画の検討
- 1. 現場架設に関する積算資料の作成建設省と協議をして例題を設けて行か或は実績に基づいた資料を作成する
- 2. 床板及び高欄についての資料蒐集検討
- 3. 塗装に関する細い資料の蒐集
- 4. 検査基準がまちまちであるのでこれを統一出来ないものか技術委員会と協議すること
- 5. 積算基準を出している建設省本省に対してP

Rをすること

- 6. 耐候性鋼材価格の表示について検討
 - 7. 横断歩道橋の新しい標準設計について見積基準の作成
 - 8. 横断歩道橋の材料の入手困難度を示した一覧表を作成すること
- 4月28日 鋼道路橋原価計算表説明会の整理検討会開催

☆5月

- 5月12日 日本道路公団より問い合わせの、酒匂川橋梁、皆瀬川橋梁架設費の検討 於 協会々議室 14時より
- 5月15日 酒匂川橋梁、皆瀬川橋梁架設費の検討 於 協会々議室 14時より
- 5月18日 酒匂川橋梁、皆瀬川橋梁架設費について日本道路公団へ回答
- 5月23日 幹事会開催 於 協会々議室 13時より
北海道開発局よりの架設についての問い合わせ事項の検討
- 5月26日 大阪府道路課より問い合わせの架設工事標準単価の内訳について回答
- 5月30日 幹事会開催 於 協会々議室 14時より
北海道開発局より問い合わせの件 架設実態調査様式の検討
- 5月31日 幹事会開催 於 協会々議室 15時より
日本道路公団よりの問い合わせについて検討
- 1. 板取切断計画について
- 2. 溶接延長換算6%について（脚長別）
- 3. 材質別厚さ別切断延長

☆6月

- 6月20日 幹事会開催 於 協会々議室 10時より
- 1. 早期発注に関する陳情の件
- 2. 横断歩道橋見積資料作成について
- 3. 横断歩道橋に関する陳情の件
- 4. 鋼道路橋原価計算表（昭和42年度版）発行について

労務委員会

昭和42年春のベースアップ状況

会 社 名	要求日	要求額	妥結日	妥結額
高 田 機 工	3/10	6,500	4/21	4,800+300
松 尾 橋 梁	3/10	6,500	4/20	5,300
駒井鉄工大阪	3/10	4,700	4/11	4,300+100
春 本 鉄 工	3/10	5,000	4/19	4,500
片 山 鉄 工	3/10	除定昇 4,000	5/ 9	4月定昇除 3,350 7月定昇 1,100
日 本 橋 梁	3/10	6,500	4/19	5,300
桜 田 機 械	3/ 7	7,000	4/24	5,225
宮 地 鉄 工	3/ 6	6,500	4/22	5,100
横 河 橋 梁	3/10	5,500	4/27	5,300
東京鉄骨橋梁	3/10	6,000	4/19	4,500+300
滝 上 工 業	3/13	5,600	4/13	3,500+360
駒井鉄工東京		3,700	5/ 3	3,500

昭和42年夏期賞与支給状況

会 社 名	要求日	要求額	妥結日	妥 結
高 田 機 工	6/ 12	53ヶ月	6/17	2.42ヶ月 平均 128,322 112,773+α 111,017
松 尾 橋 梁	6/ 3	125,000	6/17	116,000
駒井鉄工大阪	6/ 5	120,000	6/16	112,000+2,500
春 本 鉄 工	6/ 3	115,000	6/24	110,000
片 山 鉄 工	5/26	107,000	6/ 6	103,500+1,500
日 本 橋 梁	6/ 1	130,000	6/17	125,000
滝 上 工 業	5/22	97,000	6/12	88,000
桜 田 機 械	6/ 3	110,000	6/21	102,000
宮 地 鉄 工	6/ 2	120,000	6/20	112,000
横 河 橋 梁	6/ 1	113,000	6/ 9	111,500
東京鉄骨橋梁	6/ 1	114,000	6/16	108,000+2,000
トビー工業	6/ 5	75,000	6/27	66,000
駒井鉄工東京	6/ 5	95,000	7/ 3	78,000+4,000

☆3月

3月14日 幹事会開催

昭和42年春の賃上げについて

☆5月

5月8日 幹事会開催

1. 昭和42年度春闘について反省
2. 東西合同労務幹事会開催に関する件

5月8日 委員会開催

1. 昭和42年度春闘についての反省

☆6月

6月2日 第13回東西合同労務幹事会開催（関東）

資材委員会

1. 資材見学会（6月、12月に開催一回は、関西方面）
2. 資材関係の映画とロールメーカーの新製品の説明会を開催する。（鉄鋼大手5社に依頼、5月7月、9月、43年1月に開く）
3. 鋼材価格の長期低位安定について関係先への要望

☆4月

4月17日 幹事会開催

1. 昭和42年度資材委員会事業計画の検討

☆5月

5月23日 資材映画会開催

富士製鉄により富士ハイテン、H形鋼、米山大橋の映画と富士製鉄の新製品の説明紹介

5月23日 幹事会開催

6月の資材見学会開催について

適当な見学場所がないため中止とした

輸送委員会

1. 輸送幹事会を隔月開催
2. 必要に応じその都度委員会を開く
3. 輸送に関する映画又は講演会（専門家に依頼）開催
4. 国鉄物資別適合貨車の開発促進について、国鉄当局との懇談会開催
5. 海上輸送について専門家を招き懇談会開催
6. カツ大重量品の割増について（現在は臨時の約束となっている）段階的な割増率の制定について日本トラック協会と懇談検討の上関係局へ要請
7. 昭和42年度版「鋼道路橋原価計算表」の輸送費の検討と資料の作成

☆4月

4月24日 委員会開催

昭和42年度の輸送委員会事業計画の検討

☆6月

6月8日 幹事会開催

1. 国鉄物資別適合貨車開発に関する件について
2. 最近のトラック輸送の問題点について

本州四国連絡架橋調査委員会

☆3月

3月2日 第7回幹事会開催 於 協会々議室14時より

上部工施工に関する評価表について

3月14日 第8回幹事会開催 於 本州四国連絡道路調査事務所 11時より

上部工施工に関する評価表についての官側との打合せ

3月15日 第8回製作分会開催 於 川崎重工業保健会館 11時30分より

41年度報告書の検討

3月17日 第9回架設工事分会開催 於 鉄骨橋梁会館10時30分より

評価表の再検討

3月24日 架設工事分会第15回関東班打合せ

於 協会々議室 14時より

多径間吊橋のケーブル架設について

3月31日～4月1日 架設工事分会第16回関東班打合せ 於 今井 9時30分より

41年度報告書作製作業

☆4月

4月4日 第10回架設工事分会開催 於 日立造船会館 10時より

評価表並報告書作製打合せ

4月5日 製作分会第5回関東班打合せ 於 協会々議室 13時より

評価表の検討

4月14日 第11回架設工事分会開催 於 鉄骨橋梁会館 10時30分より

41年度報告書最終取りまとめ

4月17日 第9回幹事会開催 於 協会々議室 11時より

41年度報告書の説明会

4月25日 本委員会開催 於 鉄骨橋梁会館

41年度報告書の説明会

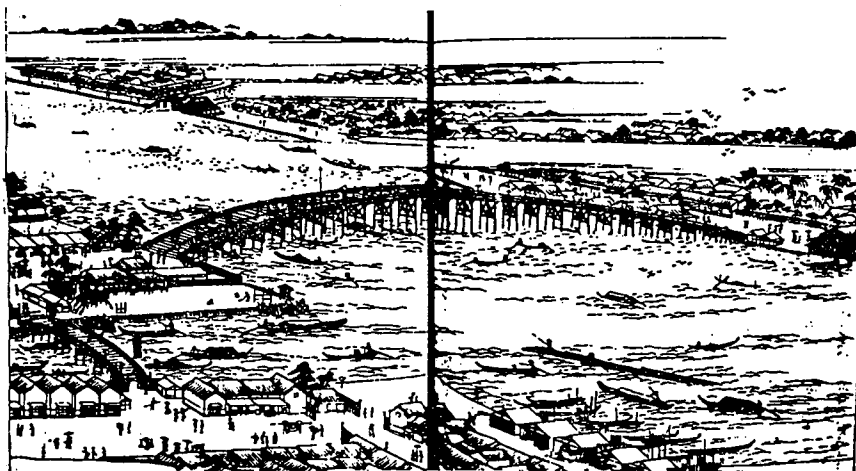
☆5月

5月17日 第12回架設工事分会 於 鉄骨橋梁会館 10時30分より

補剛トラス架設中の耐風ケーブルによる耐風処置について

5月29日 架設工事分会第18回関東打合せ 於 横河工事株式会社社会議室 14時より

補剛トラス耐風処置最終取りまとめ



事務局だより

前理事 高田 稔氏（松尾橋梁株式会社相談役）建設大臣表彰を受ける

建設省主催「建設祭」に於て氏の永年に亘る橋梁建設業界への功績に対して建設大臣より表彰状並びに記念品がおくられた。

新 役 員 住 所 録

- 会 長 大 森 弘 大田区雪ヶ谷町267
副会長 牧野 正士 目黒区碑文谷 6 の 10 の 16
副会長 富士 栄一 台東区浅草 1 の 19 の 2
理 事 川田 忠雄 富山県東礪波郡福野町松原新 1790
理 事 笹村 越郎 神奈川県藤沢市片瀬海岸 3 の 17 の 7
理 事 稲垣 茂樹 世田谷区玉川等々力 1 の 45
理 事 三浦文次郎 杉並区荻窪 2 丁目 189
理 事 北栄弥三松 大阪府高石市羽衣 5 の 6 の 20
理 事 守屋 学治 世田谷区下馬 2 の 74
監 事 光永一三男 大阪府吹田市大字千里山 10～1～1
監 事 河 合 剛 兵庫県西宮市花園町4～7



行 事 報 告

☆3月

- 3月3日 資本取引自由化について
建設省と懇談

☆4月

- 4月5日 日本道路公団と懇談会開催
於 第一ホテル 10時30分より
4月17日 資本取引自由化について建設省と懇談
於 建設省 13時30分より
4月18日 長大橋研究委員会幹事会開催
於 協会々議室
4月27日 東京湾総合開発会議理事会へ
事務局長出席

☆5月

- 5月11日 建設関係春の叙勲者祝賀会開催
於 パレスホテル 17時より
本会関係としては
勲三等瑞宝章 松 尾 岩 雄 氏
(松尾橋梁株式会社取締役会長)
5月16日 昭和41年度会計監査の実施
5月18日 東京湾総合開発会議総会
事務局長出席 14時より
5月26日 横断歩道橋標準設計図集の説明会の開催
於 機械振興会館 14時より

☆6月

- 6月9日 第25回会員懇親ゴルフ大会開催
於 日高カントリークラブ
優 勝 草薙貞一(川 田 工 業)
2 位 加藤染雄(横 河 橋 梁)
3 位 石田俊夫(石川島播磨重工)
日本橋梁建設協会杯取切戦
優勝者 御園一雄(横 河 橋 梁)
6月9日 大阪地区会員に対する横断歩道橋標準設計図集の説明会の開催
於 大阪府厚生会館 14時より
6月27日 会長加藤染雄氏 葬儀
於 青山葬儀場 13時より
6月10日 2年以上にまたがる橋梁工事の調査を実施しその結果を水資源開発公団に提出

委員会名簿

運営委員会

委員長 山川敏哉 (横河橋梁)
委員 小服部藤保英太郎 (駒井鐵工)
委員 伊神 (宮地建設)
委員 伊神 (横河橋梁)

技術委員会

委員長 松浦作造 (東京鐵骨橋梁)
幹事 榎淳市 (石川島播磨重工業)
幹事 柴谷仁大 (汽車製造)
幹事 村上六夫 (桜田機械)
幹事 久上野達雄 (日立橋梁)
幹事 沢口俊誠 (日立橋梁)
幹事 鎌田正司 (三宮鐵工)
幹事 小長谷修一 (横河橋梁)
幹事 池田

技術委員会分科会

設計分科会

分会長 榎中谷淳市 (石川島播磨重工業)
中村上 谷忠六 (汽車製造)
渡辺 昭房 (東京鐵骨橋梁)
印工 関田平男 (日立橋梁)
雨村 明衛 (日立橋梁)
菊長 川一 (横河橋梁)

製作分科会

分会長 久末達雄 (日立橋梁)
金森谷井田 (東京鐵骨橋梁)
森植田中 (東京鐵骨橋梁)
宮田脇尾 (日立橋梁)
永三村山 (三宮鐵工)
金明石

架設工事分科会

分会長 池田田謙一 (横河橋梁)
菅羽島正義 (石川島播磨重工業)
小川田中 (川賀田鐵工)
田今村 (栗駒鐵工)
加江

市場調査委員会

委員長 御園一雄 (横河橋梁)
幹事 神保久紀 (石川島播磨重工業)
幹事 鈴木克門 (川田鐵工)
幹事 酒井藤二 (桜田機械)
幹事 伊久間正生 (高田鐵骨橋梁)
幹事 佐末松郎 (東京鐵骨橋梁)
幹事 西吉村英正 (日立橋梁)
幹事 黒中

労務委員会

委員長 田中敏夫 (宮地鐵工)
幹事 前沢真勝 (汽車鐵工)
幹事 滝沢定一 (駒井鐵工)
幹事 佐木川村正一 (桜田鐵工)
幹事 山中小西 (横河橋梁)

輸送委員会

委員長 北川孝三 (宮地鐵工)
幹事 稻垣米之助 (石川島播磨重工業)
幹事 政岡泰治 (東京鐵骨橋梁)
幹事 山井吉博 (日立橋梁)
幹事 三田勉一 (三宮鐵工)
幹事 杉山誠

資材委員会

委員長 岩田守 (宮地鐵工)
幹事 多田正 (駒井鐵工)
幹事 佐久間正 (高田鐵工)
幹事 平野井村 (東京鐵骨橋梁)
幹事 西田島谷 (日立橋梁)
幹事 細田武

会報編集委員会

委員長 御園一雄 (横河橋梁)
委員 松浦田井村中島川保 (東京鐵骨橋梁)
委員 鎌酒中田北神 (駒井鐵工)
委員 酒中田北神 (宮地鐵工)
委員 中田北神 (石川島播磨重工業)

役 員 名 簿

会 長	株式会社 横河橋梁製作所	専務取締役	大 森 弘
副会長	石川島播磨重工業株式会社	常務取締役	牧 野 正 士
副会長	株式会社 宮地鉄工所	専務取締役	富 士 栄 一
理 事	川田工業株式会社	取締役社長	川 田 忠 雄
理 事	汽車製造株式会社	取締役社長	笹 村 越 郎
理 事	株式会社 駒井鉄工所	取締役副社長	稲 垣 茂 樹
理 事	高田機工株式会社	取締役副社長	三 浦 文 次 郎
理 事	松尾橋梁株式会社	取締役社長	北 栄 弥三松
理 事	三菱重工業株式会社	常務取締役	守 屋 学 治
監 事	日本橋梁株式会社	取締役社長	光 永 一三男
監 事	日立造船株式会社	取 締 役	河 合 剛

昭和42年5月就任

会 員 名 簿

石川島造船化工機株式会社	取締役社長	下 村 禮 輔
本社・工場 東京都江東区新砂町2-3-43	電話東京(03)(644)2131(645)9411(大代表)	
石川島播磨重工業株式会社	代表取締役社長	田 口 連 三
本社 東京都千代田区大手町2-4	電話 東京 (03) (270) 9 1 1 1	
浦賀重工業株式会社	代表取締役社長	大 塚 振 武
本社 東京都千代田区大手町2-4(新大手町ビル7階)	電話東京(03) (211) 1 3 6 1	
大 島 工 業 株 式 会 社	取締役社長	大 島 竹 一
本社 横浜市南区井土ヶ谷中町136	電話横浜 (045) (73) 0832 (代) ~9	
株式会社 片 山 鉄 工 所	代表取締役	島 田 孝 治
本社・工場 大阪市大正区南恩加島町1	電話大阪(06) (552) 1231 (大代表)	
片山鉄骨橋梁株式会社	代表取締役社長	片 山 薫
本社 東京都千代田区神田司町2-7(福禄ビル6階)	電話 東京(03)(293)4461 (代表)	
川崎重工業株式会社	取締役社長	砂 野 仁
本社・神戸工場 神戸市生田区東川崎町2-14	電話 神戸(073) (67) 5001 (大代表)	
川田工業株式会社	取締役社長	川 田 忠 雄
本社・工場 富山県福野町4610	電話 福野 (07632) 2101 (代表)	
汽車製造株式会社	取締役社長	笹 村 越 郎
本社 東京都千代田区大手町2-8(日本ビルディング)	電話東京(03)(270) 6551(大代表)	

株式会社 栗本鉄工所 本社	大阪市東区唐物町4-26 (太陽生命ビル内) 電話大阪(06) (251) 3431 (大代表)	取締役社長 井戸崎 好 次
株式会社 呉造船所 本社	東京都中央区八重洲2-3 (中川ビル) 電話 東京 (03) (272) 6711 (大代表)	代表取締役社長 水 谷 卯 吉
株式会社 駒井鉄工所 本社・港工場	大阪市港区北福崎西之町8	取締役社長 駒 井 英 二 電話 大阪(06) (572) 1112~8
株式会社 酒井鉄工所 本社・工場	大阪市西成区津守町西6-21	取締役社長 酒 井 芳 申 電話 大阪(06) (661) 1331 (代表)
桜田機械工業株式会社 本社	東京都中央区銀座1-3	取締役社長 櫻 田 巖 電話 東京(03) (561) 2166 (代表)
佐世保重工業株式会社 本社	東京都千代田区大手町2-4	代表取締役社長 大 木 直 正 電話 東京(03) (211) 3631 (代表)
佐藤工業株式会社 本社	富山市桜木町1-11号	取締役社長 佐 藤 欣 治 電話 富山(0764) (31) 6531(大代表)
高田機工株式会社 本社・工場	大阪市西成区津守町西6-1	代表取締役社長 木 崎 輝 雄 電話 大阪(06) (661) 5831~5・1271~5
滝上建設興業株式会社 本社・工場	名古屋市中川区清船町4-1	代表取締役 滝 上 登 始 夫 電話 名古屋 (052) (351) 5 6 4 1 (代表)
滝上工業株式会社 本社	東京都中央区湊町1-3	代表取締役 滝 上 清 次 電話東京 (03) (552) 6681 (代表)
中央梁橋株式会社 本社	愛知県知多郡上野町浅山新田地先	代表取締役 菊 地 康 次 電話 上野町(0560) (63) 1255 (代表)
株式会社 東京鉄骨橋梁製作所 本社・工場	東京都港区芝浦4-15-1	代表取締役 山 手 研 吾 電話東京(03) (451) 1141(代)3958・8201~2
東網橋梁株式会社 本社	東京都中央区日本橋茅場町1-4	取締役社長 鈴 木 丹 電話 東京 (03) (669) 2361 (代表)
トビー工業株式会社 本社	東京都千代田区四番町5-9(東亜ビル) 電話 東京(03) (265) 0111 (代表)	取締役社長 藤 川 一 秋
檜崎造船株式会社 本社・工場	北海道室蘭市築地町135	取締役社長 水 田 正 電話 室蘭(0143) (2) 1191 (代表)
日本橋梁株式会社 本社・工場	大阪市淀川区長柄浜通1-1-13	取締役社長 光 永 一三男 電話大阪(06) (358) 1271 (代表)

日本鋼管株式会社 本社 東京都千代田区大手町1-2	代表取締役社長 赤坂 武 電話東京(03)(212)7111(大代表)
日本車輛製造株式会社 本社・名古屋支社 名古屋市熱田区三本松町1-1	取締役社長 天野 春一 電話 名古屋(052)(861)3311
日本鉄塔工業株式会社 本社 東京都中央区銀座東4-4	取締役社長 有田 勇次郎 電話 東京(03)(542)3311(代表)
函館ドック株式会社 本社 東京都中央区日本橋通2-3	取締役社長 合田 秀雄 電話東京(03)(272)1731(代表)
株式会社春本鐵工所 本社・工場 大阪市大正区南恩加島町1-151	取締役社長 春本 利雄 電話 大阪(06)(552)1461(代表)
日立造船株式会社 本社 大阪市西区江戸堀1-47	取締役社長 永田 敬生 電話 大阪(06)(443)8051(大代表)
富士車輛株式会社 本社・工場 大阪府南河内郡狹山町大字池尻383	取締役社長 藤本 豊三 電話 登美丘(0723)(7)0761・5761
舞鶴重工業株式会社 本社 東京都千代田区竹平町1(パレスサイドビル)	代表取締役 赤松 茂 電話 東京(03)(213)1681(代表)
松尾橋梁株式会社 本社・工場 大阪市大正区鶴町3-110	取締役社長 北 栄 弥三松 電話 大阪(06)(552)1551(大代表)
三井造船株式会社 本社 東京都中央区築地5-6-4	代表取締役社長 田中 繁松 電話 東京(543)3111(大代表)
三菱重工業株式会社 本社 東京都千代田区丸の内2-10	取締役社長 河野 文彦 電話東京(03)(212)3111(大代表)
宮地建設工業株式会社 本社 東京都文京区本駒込6-13-10	取締役社長 宮地 武夫 電話 東京(03)(946)5171~7
株式会社宮地鉄工所 本社・工場 東京都江東区新砂2-2-8	取締役社長 宮地 武夫 電話東京(03)(645)1141(代表)
株式会社横河橋梁製作所 本社 東京都港区芝浦4-4-44	取締役社長 横河 時介 電話東京(03)(453)4111(大代表)
横河工事株式会社 本社 東京都千代田区平河町2-7	取締役社長 横河 時介 電話 東京(03)(263)0431(代表)



— あ と が き —

第4号は加藤会長急逝の為その追悼と云った形をとりました。

毎回会員各位の御意見、随筆等を期待致して居りますので振って御投稿下さる様御願い致します。尚御投稿下さった方に薄謝（記念品）を進呈致します。